



— No. **75** —

平成 26 年 8 月 (2014 年)

編集 独立行政法人 西群馬病院
発行 国立病院機構

電話 0279-23-3030
FAX 0279-23-2740

E-mail: nishigun@nngh.hosp.go.jp
http://www.hosp.go.jp/~wgunma



富士山 吉田ルート下山道からの眺め

診療放射線技師 宮下 慎也

2013 年 6 月 22 日に世界文化遺産に登録された富士山もいよいよ登山シーズン(7月～9月)になりました。人生で一度は是非チャレンジしてみてください。感動の風景が待っています。

独立行政法人国立病院機構

西群馬病院の基本理念

患者さんと共に考える医療

1. 専門性の高い良質な医療を推進します
2. 十分な情報を提供し、生活の質 (QOL) を尊重します
3. 生命の尊さと人権を尊重し、安全な医療を提供します
4. がん・呼吸器疾患・重症心身障害児(者)の専門病院として、社会に貢献します
5. 地域医療支援病院として、地域医療に貢献します
6. 健全な経営と適正な運営に努めます

目次

第14回市民公開セミナーを開催して	1
「看護の日」のイベントを開催して	2
永年勤続表彰(20年)を受賞して	3
研修会報告	5

シリーズ

●診療科紹介	9
●健康シリーズ	10
●医療安全管理室だより	11
●重症心身障害病棟だより	12
●栄養管理室だより	13
●ボランティアだより	14
●ICT部会だより	15
●新病院(渋川医療センター)だより	16
●地域医療連携室だより(地域医療機関の紹介)	17
●がん相談支援センターのお知らせ	18
●診療方針・看護の理念	19

第14回 市民公開セミナーを開催して



管理課長 長野 智樹

がん診療連携拠点病院機能強化事業の一環として、平成 26 年 6 月 14 日（土）14 時からアネーリ渋川において市民公開セミナーを開催しました。

西群馬病院主催の市民公開セミナーは 7 年目を迎え 14 回を数えます。

今回の参加者は 192 名、「新しいがん診療と治療」をテーマに、第一部は医学講演会、第二部はオペラコンサートの二部構成で実施いたしました。

第一部の講演会は、平成 28 年 4 月に当院と統合が予定されている「渋川市立渋川総合病院」とのコラボレーション企画として渋川総合病院医師並びに当院医師各々 1 名による講演を行いました。

渋川総合病院外科長である倉林先生の講演「大腸がんに対する腹腔鏡下手術」では、ビデオを取り入れた迫力のある映像でみなさん目を見張っていました。また、当院呼吸器科医長の吉野先生からは「肺がんの診断～超音波気管支鏡ガイド下経気管支針吸引生検について～」の講演で、新しい診断手法が紹介されました。

第二部は、オペラコンサートが行われ、オペラ歌手の張りのある声に、一瞬、会場のみなさんから驚きの声が上がりましたが、最後には会場のみなさんと「花」の合唱で大いに盛り上がりました。

今後も西群馬病院の市民公開セミナーは年 2 回（春・秋）継続して開催していきます。これにより地域住民のみなさんとの距離をなくし、地元根付いた、身近で頼りになる病院となるよう、この市民公開セミナーに関わりの場として大切にしていきたいと考えています。

次回の第 15 回市民公開セミナーは、11 月 8 日（土）に、講演会と健康測定、健康相談の内容で実施する予定となっております。

みなさんからのアンケートを参考に充実した内容で開催したいと思っておりますので、是非、ご参加くださいますようお願いいたします。



斎藤院長のあいさつ



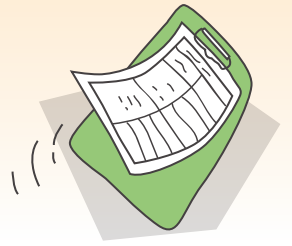
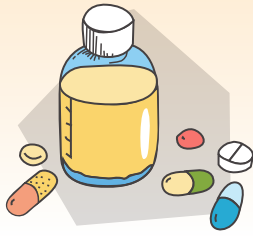
倉林先生の講演



吉野先生の講演



オペラコンサート



「看護の日」のイベントを開催して

緩和ケア病棟看護師 松澤 寿子

毎年5月12日は看護の日です。看護の日とは、ナイチンゲールの生誕を記念して制定されました。『看護の心をみんなの心に』というテーマで、看護の心、助け合いの心を私たち一人一人が、分かち合うことを目的としています。

看護研究会では、5月13日に患者さんやそのご家族、地域の方々を対象として、看護の日のイベントを行いました。イベントの内容としては、身長、体重、血圧、脳年齢、血管年齢、骨密度などの各種測定。栄養士の方には栄養相談を行っていただきました。各種測定は毎年楽しみにしている方も多く、測定結果に興味深く聞いている方を目にしました。栄養相談では各種測定結果をもとに、パンフレットなど用いて、各個人に合ったアドバイスを行っていただきました。

講演会は毎年様々な内容で行っていますが、今年は薬剤師の方が『薬と上手にお付き合いしていますか』というテーマで講演を行いました。薬の飲み方、注意点、保管方法などについて、一般の方向けに分かりやすくお話しをしていただきました。日頃内服している薬の内服方法や、使用期限

についてなどの質問があり、丁寧に対応していただきました。

毎年開催するこのようなイベントを通して、自身の健康状態に関心を持ち、日頃の生活習慣を見直すきっかけにするなど、健康の維持・増進に役立てていただければと思いました。

また、お忙しい中、栄養管理室、薬剤科、各病棟からスタッフの応援を出していただき、無事にイベントを終えることができました。長い間続いた看護研究会も、5月で終了となりました。今後は看護部だけでなく、病院全体が協力し、患者さんや地域の方々とコミュニケーションを図る場として、『看護の心をみんなの心に』という気持ちを、各々の心に留められる時間が作れたら良いのではないかと思います。



医療安全管理係長 星野 まち子

この度、永年勤続表彰（20 年）を頂きました。看護師として働く事を支援して下さいました方々に心より感謝申し上げます。

私は長男の出産を機に一度退職しましたが、1 年も経たないうちに再就職した経緯があります。昨年 1 月、長男は無事に成人式を迎える事ができ、私も今回看護師としての成人式を迎える事ができました。子育てしながらの看護師生活。母親失格のエピソードは後を絶ちません。

深夜明け、2 階で寝ている私の元へ「寝てていいよ」と 2 人の息子が交互に声をかけにやってきます。陽の当たる公園には行かず、仮眠のできる映画館へ。鉄棒から落ちて手首を腫らした長男に「湿布しとけば大丈夫」と言って 3 日我慢させた後に整形受診した結果は「骨折ですよ。お母さん。」「看護研究発表」という大義名分を掲げ、5 歳と 2 歳の息子を家族に任せ、単身イギリスへ 10 日間。

看護師としては、素敵な経験を沢山させて頂いております。“あったかい飲み物を飲んで貰う” “患者さんの隣に座り一緒に口ずぼめ呼吸をする” “優しく背中をさする” 医学的根拠を理解した上で看護師としての知識と経験を駆使し、真夜中に呼吸困難を訴える患者さんと真剣に向き合う先輩看護師の姿から、プロとは何かを学びました。受持患者さんのケアを通じて、看護師である前に一人の人間として向き合う事の大切さを学びました。看護師長として当院に赴任してからは、副師長とスタッフの理解と協力のもと、チームを作り上げる事の喜びを経験させて頂きました。現在は医療安全を担当し、患者さんやスタッフと直接触れ合う機会が減っていますが、その分、他職種の人との係わりが増えました。勉強すべき事は、日々、降って湧いてきます。

二男は現在高校 3 年生。『仕事と子育て』、あとちょっと踏ん張りたいと思います。

7 病棟看護師長 恩幣 和子

この度、永年勤続表彰（20 年）を頂き、ありがとうございました。

私は、西群馬病院に就きまして、11 年目となり、あっという間に年月が経ってしまいました。病棟配置は、結核病棟、重心病棟、そして、現在の呼吸器内科病棟とそれぞれ特性をもった病棟を経験させて頂きました。

看護師長で昇任してきたばかりの頃は、いろんなハプニングがありました。高崎から西群馬病院の通勤道に慣れず、暗い農道を走っていたら、いつの間にか榛名方面に向かったようで、自宅に着いた時は、ほんとに疲れてしまい、時には旅行で出かけるような渋川の地に、これから職場として通勤できるのか不安になったり、朝の出勤で、東駐車場に着くと、なぜか腹痛がおこり、帰りたい気持ちになることもありました。こんなふうに、当初は環境に慣れずにいた私でしたが、

この 10 年いろんな方に助けられ、教えられながら多くのことを学ばせて頂き、地道に成長してきているのかなと思っています。

この受賞を頂いたときに、ふと、看護師になろうと思ったきっかけは何だったのかなと、思い起こしてみると、祖母の影響があったように思います。私は、子供の頃から、祖母が大好きで、よく髪を洗っていました。祖母は、とてもうれしそうで、私もその笑顔を見るのが好きでした。そのことが、なんとなく看護師になろうと決めたきっかけのように感じます。

看護師になって思うことは、何年経っても、いろんな出来事に遭遇し、そのたびに悩み、苦しむこともありますが、人を思いやる気持ちを忘れずに、今の職場で働く仲間を大事にして、これからもよい職場づくりをしていきたいと思っています。

受賞して



手術室看護師 草間 成子

先日、5月28日に永年勤続表彰を頂きました。この話を聞いた時は、「えっ！私がですか？」と思わず言っしまい、就職してから月日が20年も経っている事を、改めて実感しました。

私が就職したころは、この間の雪ほどではないですが、この辺りは毎年のように雪が30cmほど積り出勤するのが大変でした。勿論今よりも病室、中央廊下は寒かった記憶があります。

始めて配属されたのは1病棟（外科）で色々な経験をさせて頂きました。初めは先輩方の動きに圧倒されて、毎日がドキドキの連続で名前を呼ばれるだけで驚いていたものです。でも、医師やスタッフ、プリセプターの先輩に優しく指導をして頂いたので働くことが楽しかったのを覚えています。それから、3年後、患者さんを看ているうちに手術に興味を持ち今の手術室に配属になりました。

手術室に配属になった当初は、今までの経験とは別に覚えることは沢山あり、瞬時に動ける行動力を求められ、実施することに対して不安で、私の口癖が「ちょっと聞いていいですか？」でした。今もそのことを知っているスタッフに笑い話で言われます。そして、当時は師長とスタッフ3人で手術の介助についていました。呼吸器の手術は夜中になったこともしばしばありました。その後、妊娠出産を経てまた手術室に配属となり、最近では中材は委託になり、昨年には整形外科の手術も行われるようになりました。気付くと、病院の生き字引になっているような気がします。

今の私がいるのも、今まで関わって指導して頂いた方がいたからこそと思っています。その恩返しという理由ではないですが、再来年には新病院になるということで、微力ながらお役に立てればと思います。

外来看護師 板倉 玲子

この度、永年勤続表彰（20年）をいただきました。

目指していた看護師になり20年、振り返ると長かったような短かったような……。その中で40歳を超え、人生の約半分を看護師で過ごしたと思うと長いような気がします。

看護師になり、結婚・出産・育児と色々環境も変わりました。楽なことばかりではなく辛いことももちろんありました。でも、看護師を辞めたいと思う気持ちも湧かず今日まで生きています。それは、「看護職が好きな気持ち」や「家族のサポート」、「職場のスタッフの協力」、「制度の変化」などのお陰だと実感しています。中でも、妊娠・出産・育児のサポート制度の導入にとても助けられています。私の場合、妊娠中は夜勤の回数を考慮して頂き、今は育児短時間

就業をとらせて頂いています。家族は多く協力も得られますが認知症の祖母を母が看ており子供の事は私になるべくできるように、保育園の送り迎えの時間などに合わせ申請できるので大変助かっています。

今年度で育児短時間就業の条件が外れてしまうことに少し不安がありますが、この一連の制度をとらせていただき周りのスタッフにもとても助けられましたので来年度からは協力する側になりサポートしていきたいと思っています。

これからも周りの人に支えられ、私の看護を日々評価しながら努めていきたいと思っています。それと同時にこのステキな仕事を続けられることで永年勤続表彰を受ける人が増えることを願っています。



研修会報告



医療技術職員等新採用

理学療法士 大澤 雅史

今回、5月21日～23日と3日間に渡り、「平成26年度 医療技術職員等新採用研修」に参加させて頂きました。本研修は、医療技術職および事務職の新採用者約250名を超える参加があり、大規模な研修会となりました。また研修内容も充実しており、有意義な時間を過ごすことが出来ました。特に、接遇研修においては外部から講師をお招きし、職業人として必要なコミュニケーションスキル、また報告・連絡・相談の重要性を改めて再認識することが出来ました。また班別討議では他職種との活発な意見交換ができ、各職種の専門性や医療に対する考え方、発想力を肌で感じ、自身のモチベーションの向上につながったと思います。

今回研修に参加したことで、医療人としてのプロ意識、そしてチーム医療の重要性を学ぶこ



とが出来ました。この経験を当院でも生かし、質の高い医療・患者満足度の向上につなげ、国立病院機構職員として一層努力を重ねていきたいと思います。

薬剤師 川口 徳宜子

研修を通じて、多くの他職種の人たちや他病院の同期に出会い、様々な視点に立った意見を聞くことができ、とても良い刺激を受けました。そしてチーム医療の一員である薬剤師として、今後患者さんのために何ができるかを改めて考えさせられました。



職員研修に参加して

グループワークでは様々な職種における「患者サービス」について考え、ただ業務をこなすのではなく、患者さんに寄り添える薬剤師になれるように、何事もまずよく傾聴し、共感を示す心のこもったコミュニケーションが患者さんの満足にも繋がっていくことを学びました。

社会人としてのマナーや仕事の基本をはじめ、コミュニケーションの重要性など、今回の研修で学んだことを今後十分に活かし、患者さんのための医療に貢献できる薬剤師になれるように、より一層努力していきたいと思います。

栄養士 西脇 千里

私は、平成 26 年 5 月 21 日(水)から 23 日(金)までの 3 日間、独立行政法人国立病院機構本部で開催された医療技術職員等新採用職員研修に参加して来ました。そこで、国立病院等の役割や倫理などを学びました。特に印象が強かった研修項目は、職種別分科会でのグループ討議です。「患者サービスとは」というテーマで討議した際、「患者さんの望みを実現するのが患者サービスである。その為にも、嗜好調査や喫食者アンケートを行い、患者さんに還元する事が大切。」というグループ結果になりました。同じ職種でも考え方や捉え方が異なる為、他者の意見を取り入れる事で新しい気づきが発見できると実感する事が出来ました。



研修を通じて、コミュニケーションや勉強に取り組む姿勢を日々の業務に活かして行けるよう努めていきます。そして、患者さんに還元していきたいと思います。最後に、今回の貴重な研修に参加させていただきました関係者の皆様に御礼申し上げます。

医療技術職員等新採用職員研修に参加して



保育士 **長谷川亜由美**

5月21～23日、東京の国立病院機構本部で行われた標記研修に参加させていただきました。今回は総勢252名の新採用職員が集まり研修を行いました。改めて当機構の規模の大きさを実感するとともに、担う責務の重さを再認識致しました。3日間に渡り行われた研修では、機構の役割から先輩職員方々の提言、接遇研修、また同期の職員との交流等幅広く行われ、学ぶべきところが多く、大変有意義な時間を過ごせました。特に、西群馬病院という枠、また保育士という職域を越え他の職員の皆さんと交流・意見交換できたことは、今後自分が働いていく上で大きな支えになると思います。今回の研修を活かし、機構の一員として利用者様のお役に立てるよう、日々の職務にさらに真摯に勤めていきたいと思っています。

診療放射線技師 **藤田 裕司**

平成26年度医療技術職員等新採用職員研修に参加させて頂きました。

研修の初日では、国立病院機構の理念・沿革の講義を行って頂き、患者接遇、倫理、そして他職種と合同でのグループディスカッションにて与えられたテーマについて話し合い発表を行いました。本研修は診療放射線技師としてだけではなく病院職員としての役割を再確認する事ができました。さらに、チーム医療として患者さんを中心に他職種と協力しながら職務を遂行する事により安全・安心な医療が提供できる医療安全に繋がるのではないかと感じました。その為には、懇切丁寧な対応と患者に対する思いやりの気持ちを常に持つ事が大切であると感じました。



私たち医療職員は国立病院機構の基本理念のもとに職務を行っており、患者さんやご家族、また、職場スタッフとのコミュニケーションは必要条件となります。他職種との実りあるコミュニケーションを行い良い職場環境を築くためには、基本的な姿勢として接遇を学ぶことが重要

だと思います。このような研修会に参加し他職種との討議など行って職域を超えた個人個人の患者の対する係り方や思い方を把握するにはこのような研修は大切であると感じました。また、これから社会人として働いていく上でのルールやマナーを学ぶ大事な機会になりました。今後、積極的に社会との責任と自覚を持ち学んだことを活かせるように専門職としてしっかりと与えられた役割に努めていきたいと考えています。

新採用事務職員研修に参加して

経営企画係 吉田 貴洋

私は平成 26 年度新採用事務職員研修に参加いたしました。

研修は3日間あり、1 日目は午前中に国家公務員等の役割と国家公務員倫理についての講義を聞き、午後は文書の処理方法や保険医療制度についての講義を聞きました。文書の処理方法は以前、議事録などを作成していたこともあり、大変参考になりました。

2日目の接遇研修では敬語の使い方や電話の受け答えなどをしました。当然のマナーではありますが、私自身できていなかったことも多く、改めて接遇の大切さを感じました。今はまだうまくできませんが、みなさんに笑顔になってもらえるような接遇を心がけたいと思います。

3日目の班別討議では「もし新しい祝日を作るとしたら」といった課題に取り組みました。1 班 14 人と大人数でしたので、意見がまとまらず、大変でしたがその分色々な人と会話することができ、有意義でした。他の班は自分たちの考えを、ユーモアを交えた寸劇するなど、そのアイデアやセンスの良さに感心しました。

今回の研修を通し何よりも収穫だったことは、同じ新採用の職員と話しができたことです。誰もが自分と同じように、右も左もわからず不安を感じている中、必死に仕事をしていると知り勇気づけられました。今後も連絡を取り合い、支え合っていきたいです。



【消化器外科】

外科医長 小林 光伸

消化器外科とは、「ひと」が生きていくのに必要なエネルギーを得るために食べたものを消化・吸収・排泄する「消化器」に病気がおきた場合、手術によってそれを治療する診療科です。

消化器は、食道・胃・十二指腸、小腸・大腸、肛門、肝臓、脾臓、胆道、膵臓という領域に分けられます。おなかの救急疾患（すぐにでも処置が必要な生死にかかわる病気）の治療や、消化器のがん（食道がん、胃がん、大腸がん、肝臓がん、膵臓がんなど）の診断をし、手術治療や抗がん剤の治療をしているのが消化器外科医です。治療方針を決定する際には関連する他科（消化器内科、放射線科、病理診断科など）の医師とともにカンファランスを行い、病気の診断をいたします。

がんの場合、手術法ばかりでなく放射線療法、抗がん剤治療などを含めて、患者様の全身状態や病気の広がりや進行度の応じた、その患者様にとって何が最適な治療法であるかを検討しています。このような消化器カンファランスは定期的に週1回行っております。手術を行う場合には、手術の方法、手術によって切除する範囲、手術の手

順などを決めたり、手術前の準備（栄養管理、術前検査、安全の確認とその対策など）を行います。手術ばかりでなく外来での診察を担当し、また内視鏡や超音波による検査・治療なども行います。

また残念ながら手術治療で根治が望めない患者様に対して化学療法（抗がん剤治療）も行います。特に最近は患者様のQOLを維持できるように化学療法は可能な限り外来化学療法室を利用して外来で行うようにshiftしております。また、がんによる痛みを取り除くことも、消化器外科医の重要な仕事のひとつとなっています。

当院の場合は緩和ケア科や緩和チームを有しており、適宜相談しながら患者様にあった疼痛・苦痛対策に努めております。今後も地域の消化器疾患を有する患者様方へ貢献できるように診療に尽くしてまいりたいと思います。

がん検診を「地域がん診療連携拠点病院」で受けませんか。

検診の種類

★肺がん検診（CT、喀痰細胞検査） 費用 10,000 円（消費税込み）

※肺がん検診はCT検査のみの場合 7,000 円（消費税込み）となります。

★消化器がん検診（胃・十二指腸ファイバー、腹部超音波検査、便潜血反応、直腸指診） 費用 15,000 円（消費税込み）

※ただし、オプションとして、1. 肝炎検診（2,000 円（消費税込み））2. 糖尿病・高脂血症検診（1,000 円（消費税込み））を付加できます。

ご予約・お問い合わせ

医事係 電話 0279-23-3030（代表）

※群馬県内では、西群馬病院と他7病院が「地域がん診療連携拠点病院」に指定
我が国に多いがん（肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん等）について、住民がその日常生活圏域の中で全人的な質の高いがん医療を提供できる病院

ホジキンリンパ腫 (Hodgkin リンパ腫) について

内科系診療部長 松本 守生

「血液のがん」は一般に手術で治すことができませんが、抗がん剤による化学療法が比較的有効で、肺癌や消化器系の癌に比べて化学療法を行うことで治癒をもたらすことができます。特に悪性リンパ腫は根治を目指して治療を行う代表的な「血液のがん」で、患者さんが病院に来られた時には、「延命ではなく治って帰って頂く」ことをまず第一に考えています。一言に悪性リンパ腫と言っても、大きくホジキンリンパ腫と非ホジキンリンパ腫の二つに分けられます。このホジキンリンパ腫はさらに化学療法で治癒が期待できる疾患と考えられており、今回は比較的治りやすいと言われるこのホジキンリンパ腫についてお話をします。

悪性リンパ腫を種類別に発生頻度を見てみると、日本人では非ホジキンリンパ腫が大部分を占め、ホジキンリンパ腫は8～10%にすぎません。欧米ではホジキンリンパ腫が悪性リンパ腫全体の30%程度を占めていますので、日本人で頻度が少ないのがわかります。男性に多く、発生年齢は若年層(20～30歳)と高齢者(50～60歳)にピークがみられます。腫瘍細胞形態や背景組織によって、ホジキンリンパ腫は古典型と結節性リンパ球優位型に分けられます。古典型はさらに結節硬化型、混合細胞型、リンパ球豊富型、リンパ球減少型に分かれ、この中では結節硬化型が半数を占めています。

患者さんは主にリンパ節腫大を主訴に病院を受診します。腫大するリンパ節は頸部リンパ節が60～70%、縦隔リンパ節が50～60%、傍大動脈領域リンパ節が30～40%、脾臓が30～35%

となっています。時に原因不明の発熱を訴えて来院される患者さんもありますが、約4割の患者さんに感染症が否定できる38℃以上の発熱、原因が不明である体重減少、大量の寝汗などの症状が見られ、これらをB症状といいます。

治療方針は病期という疾患の進行程度に応じて決まります。比較的病変が限られているⅠ、Ⅱ期を限局期といい、全身に病変が及んでいるⅢ期、Ⅳ期を進行期といいます。限局期では放射線療法と短縮コース化学療法：ABVD療法(アドリマイシン、ブレオマイシン、ビンブラスチン、ダカルバジン)の併用療法が標準療法とされています。また海外では予後不良因子(巨大縦隔病変、年齢、病変の数など)の存在の有無により予後良好群と予後不良群に分け、治療内容を変更する臨床試験を行っています。限局期予後良好群は高い確率で治癒します。進行期は化学療法：ABVD療法が標準で、通常6コース施行します。

本年4月にホジキンリンパ腫の腫瘍細胞と特異的に結合し治療効果を表す抗CD30モノクローナル抗体(ブレンツキシマブベドチン)が国内でも使用できるようになり、再発・難治の患者さんに朗報がもたらされました。当院でもすでにこの新薬で治療を受けている患者さんもいらっしゃいます。

ホジキンリンパ腫は稀な疾患ですが、「血液のがん」のなかでも最も治りやすい疾患です。

適切な治療で高い治癒が期待できますので、患者さんも大きな希望を持って治療を受けています。

医療安全管理室だより

医療安全管理係長 星野まち子

去る6月12日、医療安全教育講演会を開催致しました。医療安全管理室長の蒔田副院長からは「当院における医療事故報告体制と患者影響レベル」私からは「平成25年度のヒヤリ・ハット、有害事象報告のまとめと今年度の課題」についてお話させて頂きました。全職員の出席が義務づけられている研修ですので、当日は141人の出席、その後5回に渡りDVD研修を実施し、対象者全員の研修が終了しました。

講演会終了後には、毎回アンケートの記入をお願いしています。医療安全に関して常日頃感じている事や、希望する講演会の内容などについて意見を頂く事により、今後の医療安全管理活動に役立ちます。今回頂いたアンケートの一部を紹介させていただきます。

『(患者影響)レベル0の報告が増えるのは良いのは分かっているし、その人だけの問題でインシデントが発生しているのではない事は分かっていますが、上司に怒られたり、その人だけ呼び出される現状があるから報告しない事もあるのだと思います。』

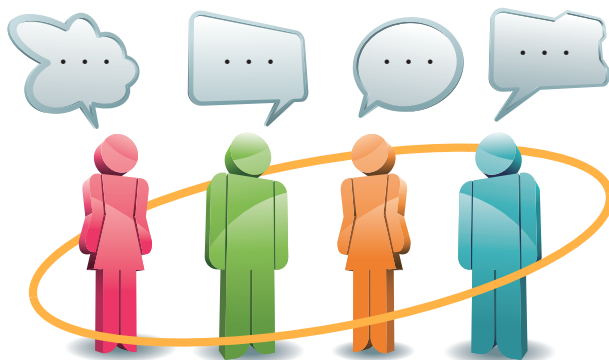
『ツイッターのようなシステムは作れないのでしょうか。気軽につぶやけて良いと思います。』

ヒヤリ・ハット報告書には「この報告書は情報共有、データ集計・分析に用いるものであり、提出する事により不利益処分を受ける事はありません」と赤字で注意書きがしてあります。「気付いた人が、気付いた時に書いて下さい。誰が書いても良いのです。」と、副院長からも、私からも、前任の医療安全管理係長からもお伝えしている事だと思います。しかし、この2つの意見からは「気軽に報告できない(つぶやけない)、報告すれば“怒られる”という不利益処分を受ける」と感じる環境があると言う事です。

この率直なご意見を目の当たりにして、自分自身の力不足を痛感しました。ちょっとした気付きでも、患者さんや職員を守る事につながるという事を、医療安全管理係長である私が、現場にフィードバックできていないという事ですから。

一方、『報告書の形式が変わったので、書きやすくなりました』という嬉しい意見も頂きました。

“ヒヤリ・ハット報告”本来の意味が病院職員全員に伝わり、気付いた職員自らが、進んで報告できる環境を作れるよう、これからも、引き続き努力して行きたいと思います。



重症心身障害病棟だより

今年のいちご狩り

主任保育士 白藤 洋子

4月中旬、36人の利用者さんがグループごとに4日間の日程で赤城町にある原田農園へ出かけていちご狩りに行ってきました。当院のマイクロバスに乗り込んだ利用者さんは道中、車窓から外の景色を楽しみ、季節の歌と一緒に口ずさみながら期待を胸にはずませて農園へと向かいました。

4日間ともにお天気に恵まれて楽しくいちご狩りができました。農園で

は2月の大雪でビニールハウスが大きな被害を受けましたが、つぶれなかったハウスの中は甘い香りが漂い、真っ赤に色づいたいちごが沢山実っていました。利用者さんは口いっぱいいちごをほおばり、果汁の甘みに口を盛んに動かして満足そうな笑顔を見せていました。

春のすがすがしい風を感じながらご家族と共に楽しく過ごすことができました。また来年が楽しみです。



春の風を感じて・・・今年の春まつり

保育士 田村 達也

四五行事のひとつである「春まつり」が5月16日に行われ、利用者・ご家族・ボランティアなど総勢約150名が集い楽しいひとときを過ごしました。

晴天下、鯉のぼりが春の風によって泳ぐ屋外の会場ではオープニングとして利用者さんの顔写真を貼り付けたお花の気球が舞い上がりました。その後、楽器演奏、綿あめ、エアートランポリン、しゃぼん玉などのコーナーを回るウォークラリーを楽しみました。今年の見どころは13人のオカリナ演奏者が来場して、誰でも知っている「シャボン玉」や「上を向いて歩こう」など童謡や昭和の歌謡曲を聴かせるコーナーがあったことです。その透明感のある美しい音色に魅了され、利用者やご家族は手拍子したり口ずさんだりして楽しむことができました。また、様々な光の演出やリラックスした音楽を聴きながら心地よい五感への刺激を味わうことができるスヌーズレンコーナーも大変好評でした。参加者からは「わあ～きれい」という声が聞かれ心を癒やすことができたようです。

春の日差しを浴びながら季節感を大いに味わった一日でした。



栄養管理室だより



～食中毒を防ぐ、3つの原則～

栄養管理室長 比嘉 並誠

腹痛や下痢、おう吐などの症状が急に出たことはありませんか。そんなときに疑われるもののひとつが「食中毒」です。食中毒は、飲食店など外で食べる食事だけでなく、家庭でも発生しています。3つの原則で食中毒を防ぎましょう。

★ 食中毒予防の3原則 ★

食中毒の原因を「つけない」「増やさない」「やっつける」

- ①つけない・・・ 手にはさまざまな雑菌が付着しています。食中毒の原因菌やウイルスを食べ物につけないように、必ず手を洗いましょう。また、生の肉や魚などを切ったまな板などの器具から、加熱しないで食べる野菜などへ菌が付着しないように、使用の都度、きれいに洗い、できれば殺菌しましょう。加熱しないで食べるものを先に取り扱うのも1つの方法です。焼肉などの場合には、生の肉をつかむ箸と焼けた肉をつかむ箸は別のものにしましょう。食品の保管の際にも、他の食品に付いた細菌が付着しないよう、密封容器に入れたり、ラップをかけたりすることが大事です。

つけない



- ②増やさない・・・ 細菌の多くは高温多湿な環境で増殖が活発になりますが、10℃以下では増殖がゆっくりとなり、マイナス15℃以下では増殖が停止します。食べ物に付着した菌を増やさないためには、低温で保存することが重要です。肉や魚などの生鮮食品やお総菜などは、購入後、できるだけ早く冷蔵庫に入れましょう。なお、冷蔵庫に入れても、細菌はゆっくりと増殖しますので、冷蔵庫を過信せず、早めに食べることが大事です。

増やさない



- ③やっつける・・・ ほとんどの細菌やウイルスは加熱によって死滅しますので、肉や魚はもちろん、野菜なども加熱して食べれば安全です。特に肉料理は中心までよく加熱することが大事です。中心部を75℃で1分以上加熱することが目安です。ふきんやまな板、包丁などの調理器具にも、細菌やウイルスが付着します。特に肉や魚、卵などを使った後の調理器具は、洗剤でよく洗ってから、熱湯をかけて殺菌しましょう。台所用殺菌剤の使用も効果的です。

やっつける



★ 食中毒かなと思ったら ★

おう吐や下痢の症状は、原因物質を排除しようという体の防御反応です。医師の診断を受けずに、市販の下痢止めなどの薬をむやみに服用しないようにし、早めに医師の診断を受けましょう。

ボランティアだより

押し花絵作品展示ボランティア 遊子工房 新沼 和子

西群馬病院の廊下に押し花を飾らせて
いただくようになってから、早くも10
年が過ぎました。

私達の楽しみは、材料を押し、作品を
作ることです。押す素材は、道端に茂っ
ている小さな草花、土にまみれた朽ちた
葉、木の皮、野菜、果物、もちろん育て
た草花は自慢の財産です。仲良くみんな
で夢をみながら、制作に励んでいます。



四季折々の花や草木を使い、ひとりひとり個性豊かな作品を作り、西群馬病院に展示しています。身近にある植物でこんなに楽しい遊びができることを多くの方に見ていただけたら幸いです。

※西群馬病院の売店先の廊下に遊子工房のみなさんが制作して下さった押し花絵が展示してあります。
ぜひ、御覧下さい。





ICT部会だより

結 核

臨床研究部長 澤村 守夫

結核は病院感染対策において重要な問題であり、集団感染を予防するための早期診断の方法と対策を理解しておく必要がある。早期に結核発病者を発見し空気感染予防策を実施する。

症状や兆候を認め、肺結核のリスクに該当する場合、結核を疑い、胸部単純X線、喀痰抗酸菌検査（3回連続）、喀痰が無い場合は胃液抗酸菌検査（2回連続）を繰り返す。さらに胸水がある場合は胸腔穿刺を行い、胸水穿刺液・一般性状検査、細胞数・細胞分画、胸水中の抗酸菌検査、アデノシン・デアミナーゼ（ADA）定量を実施する。結核菌検査の有無を知る検査法として、長らくツベルクリン反応が用いられてきたが、現在はクオンティフェロンという検査法に置き換わっている。クオンティフェロンは非結核性抗酸菌症やBCG接種の影響を受けない結核菌の感染診断として普及しつつある。

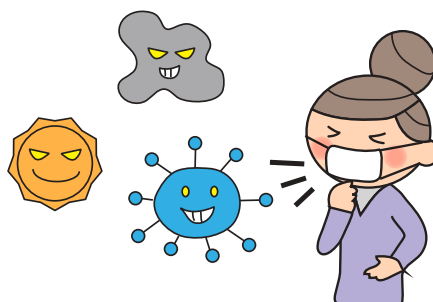
終末期や長期入院中の結核再燃や、化学療法中の結核再燃への対応も必要となる。悪性腫瘍の終末期で、患者本人や家族が積極的な治療を希望しない場合や、慢性的に肺浸潤が出ている場合には、結核の再燃については盲点になりやすいので注意が必要である。

結核は結核菌を含んだ飛沫核がくしゃみや咳、喀痰により空気中に飛び散り、肺泡まで吸入されることによって起こる空気感染であるため、標準予防策＋空気感染予防策を徹底することで周囲への拡散を防止できる。二次感染のリスクが高い開放性肺結核患者には、陰圧設備を有する結核病棟に収容することが感染法上定められている。

結核の早期発見と対応としての空気感染予防策、結核病床等について記した。

結核ハイリスク 基 礎 病 態
肝硬変
がん疾患の治療中
HIV 陽性
低栄養状態（アルブミンが3mg/dL未満）
糖尿病のコントロールが不良（HbA1cが9以上）
細胞性免疫が低下（末梢血 CD4が500/μL以下）
治 療
維持透析中である
長期（1週間以上）のステロイド治療中（PSL換算で15mg/日以上）
抗がん剤による化学療法の既往（過去6カ月以内）
放射線治療の既往（過去6カ月以内）
免疫抑制剤の投与の既往（過去6カ月以内）
免疫抑制剤投与の予定（2カ月以内）
結 核 の 既 感 染
抗結核剤による治療歴がない結核の既往がある
自然治癒（軽快）した結核の既往

症 状 ・ 兆 候
胸部異常影がある（明らかな細菌性肺炎は除く）
2週間以上続く咳嗽がある（明らかな細菌性肺炎は除く）
胸水がある
2週間以上続く不明熱がある
抗菌薬投与に反応しない発熱がある





新病院（渋川医療センター）だより

経営企画室長 竹下 秀之
新病院整備室長

本年3月22日に行われた地鎮祭から早くも3ヶ月が経ちました。その間、新病院新築工事は新病院の基礎を支える土工事に入っています。

新病院が建設される土地は岩盤が非常にしっかりしており、通常行われる杭工事は行われず、岩盤を活かし、コンクリートを打つ設計となっています。とはいえ、新病院の土台を支える工事ですので、固い岩盤の層がある9mもの深さまで掘り下げ、そこにコンクリートを流し込みます。途中で岩盤層にあたったり、1万年前は川底であったため、巨大な転石が現れるなど、思うように工事が進まないこともあります。

今後も様々な困難が待ち受けているかもしれませんが、平成28年4月の開院を目指し、着々と進めて参りたいと思います。これからの進捗にご注目ください。



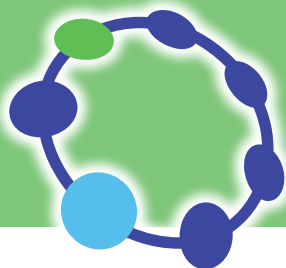
平成26年5月30日撮影



平成26年6月13日撮影



平成26年7月4日撮影



地域医療連携室だより

● 地域医療機関の紹介 ●



大滝クリニック 院長 大滝 章男

平成 18 年 11 月に吉岡町に開業をしてから 7 年半になります。日帰りの下肢静

脈瘤手術を毎週行っていて、症例数も 700 例を超えてきました。心臓血管外科に携わって 20 数年ですが、勤務医の頃には冠動脈バイパス術等の開心術を行っていましたので、クリニックに入ってから外科的なことを続けたい希望がありました。視力の方が年とともに弱くなってはきていますが、手術用の拡大鏡を愛用していて、お陰様で外来手術は無難にこなせています。

西群馬病院には、勤務医として 2 回赴任しお世話になりました。記憶に残っているのは、その赴任時よりもさらに遡って私が群馬大学医学部の学生だった頃に、当時まだ院長になられる前の斎藤龍生先生のお部屋をお訪ねしたことが最初だったと思います。バレーボール部員として部の大先輩の斎藤先生を頼って訪問したのだと思いますが、昭和 56 年ごろの西群馬病院は療養所の面影を色濃く残っていて、木造ばかりの建物はテレビに出てくるような時代を感じさせるような所だなあと感じました。その後、医師となって 3 年目に赴任した時は、重症心身障害児の病棟を見て、重い病気とともに生活している患者がいるのだと痛感しました。7 年目の

平成 2 年にお世話になった時には、敷地内に近代的な建物も増えていて、附属高等看護学校の耳鼻科の講師も経験させていただきました。現在は、新病棟となった「結核病棟」や県内での先駆けとなった「緩和ケア病棟」など新しい施設もたくさん増えていて、時代の変遷というものを感じています。

今回はさらに超近代的な大きな医療センターに移行するとのこと、期待をしております。場所も榛名山麓は思い出深いところなのですが、移転先の平坦な場所には比較的遠方の吉岡町からもご紹介をしやすくなるものと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



大滝クリニック

〒 370-3602 北群馬郡吉岡町大久保 795-3
TEL 0279-30-5800

循環器科・心臓血管外科
呼吸器科・内科・外科

独立行政法人国立病院機構西群馬病院 がん相談支援センター

● ご 相 談 方 法 ●

●がんに関する相談は「がん相談支援センター」でお受けします。

担当：ソーシャルワーカー（尾方・山田・山浦・落合）

電話：0279-23-3030（代表）医療福祉相談室

（受付時間は平日 8:30～17:15 です）

●メール相談は、下記にて終日受け付けておりますが、回答は若干の日数を要する場合がございます。

E-mail : nishigun@nngh.hosp.go.jp

セカンドオピニオン担当医表

科 別	予 約 時 間	月 曜 日	火 曜 日	水 曜 日	木 曜 日	金 曜 日
呼吸器内科 (肺腫瘍)	午後2時～	—	富澤 由雄	—	—	—
	午後3時30分～	斎藤 龍生	—	斎藤 龍生	—	—
呼吸器外科	午前中	—	—	—	川島 修	—
血液内科	午後2時～	澤村 守夫 松本 守生	—	—	澤村 守夫 磯田 淳	—
乳腺・甲状腺外科	午後2時30分～	横田 徹	—	横田 徹	—	—
消化器外科	午前中	蒔田富士雄	—	—	蒔田富士雄	—
放射線科	午後3時～	—	松浦 正名	—	—	—
緩和ケア科	午 後	—	—	小林 剛	—	小林 剛

対象者：原則として患者さん本人、患者さんの同意を得た家族
お問い合わせ先：TEL0279-23-3294 地域医療連携室（直通）

費 用：30 分毎に 5,400 円

診療方針

1. がん、特に肺がん・肝がん・造血器腫瘍等を中心とした悪性腫瘍の診断治療を一層強化する
2. 結核患者の県内拠点病院として質の高い医療を提供する
3. 重症児（者）の療育については、各職種の連携を密にし、チーム医療の充実を図る
4. PCUについては、患者の満足度の更なる向上を目指して、全人的ケア（肉体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛に対するケア）を充実させる

看護の理念

患者さんの立場にたった最善の看護

1. 患者さんの生命および人権を尊重します
2. 安全で適正な看護に努めます
3. 思いやりと真心をこめて看護します
4. 患者さんおよび家族の皆様と共に考える看護に努めます
5. 知識・技術を向上させ、専門性の高い看護を志します

患者さんの権利

1. 最善の医療サービスを受ける権利
2. 人格・人権を尊重される権利
3. 知る権利
4. 自己決定権
5. プライバシーを保護される権利

外来診療担当医表（平成26年8月1日現在）

	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
	診察室	担当医	診察室	担当医	診察室	担当医	診察室	担当医	診察室	担当医
消化器内科	5診	医師交代制 (AM)	5診	ナガシマ タモン 長島 多聞 (AM)	5診	ヤマザキユウイチ グンダイシ 山崎第一 (群大医師) (AM)	5診	トジマ ヒロキ 戸島 洋貴 (AM)	5診	ナカジマヨシミ グンダイシ 中島良実 (群大医師) (AM)
呼吸器内科	7診	サイトウ リュウセイ 斎藤 龍生	7診	イイジマ ヒロノブ 飯島 浩宣	7診	サイトウ リュウセイ 斎藤 龍生	7診	トミザワ ヨシオ 富澤 由雄	8診	ワタナベ サトル 渡邊 寛
	8診	ヨシイ アキヒロ 吉井 明弘	8診	トミザワ マイ 富澤 麻衣	8診	ツチャ ユキコ 土屋 友規子	8診	カミテ ヨウスケ グンダイシ 上出庸介 (群大医師)	7診	ヨシノ レイコ 吉野 麗子
	6診	タケイ コウスケ 武井 宏輔 (AM)								
血液一般内科	4診	イソダ アツシ 磯田 淳	3診	サワムラ モリオ 澤村 守夫	3診	マツモト モリオ 松本 守生	3診	マツモト モリオ 松本 守生	3診	サワムラ モリオ 澤村 守夫
	3診	サトウ ナル 佐藤 成	4診	ミヤザワ ユリ 宮澤 悠里	4診	ミヤザワ ユリ 宮澤 悠里 (AM)	4診	イソダ アツシ 磯田 淳	1診	医師交代制 (新患)
					6診	サトウ ナル 佐藤 成				
消化器外科	2診	マキタ フジオ 柿田富士雄 (AM)	6診	コバヤシ ミツノブ 小林 光伸			2診	マキタ フジオ 柿田富士雄	4診	コバヤシ ミツノブ 小林 光伸 (AM)
呼吸器外科					6診	カワシマ オサム 川島 修 (AM)	5診	カケガワ セイイチ ※ 懸川 誠一 (PM)	6診	カワシマ オサム 川島 修 (AM)
乳腺甲状腺外科	2診	ヨコタ トオル 横田 徹 (PM)	2診	ヨコタ トオル 横田 徹	2診	ヨコタ トオル 横田 徹			2診	ヨコタ トオル 横田 徹
緩和ケア科	6診	コバヤシ ゴウ 小林 剛 (PM)			4診	タカハシ ユウガ 高橋 有我 (PM)			4診	コバヤシ ゴウ 小林 剛 (PM)
精神腫瘍科	外 来 指導室	マジマ タケヒコ 間島 竹彦 (PM)								
放射線科	放射線科 診察室	マツウラ マサナ 松浦 正名								
整形外科			外 来 指導室	カヤカベ マサトモ ※ 加家壁正知 (AM)			6診	カヤカベ マサトモ ※ 加家壁正知 (AM)	5診	カヤカベ マサトモ ※ 加家壁正知 (PM)
			5診	カヤカベ マサトモ ※ 加家壁正知 (PM)						
小児科					5診	シミズ ノブソウ ※ 清水 信三 (PM)				

外来受付時間

午前受付 8時30分～11時00分

午後受付 12時30分～15時00分（午後は予約診療のみ）

※午後の整形外科と呼吸器外科は、初診の受付もいたします。

※小児科は重症心身障害児（者）のみの予約診療となります。

※午前の整形外科は、予約のみの受付となります。

※担当医が変更になる場合もございますので事前に電話でご確認下さい。

編集後記

平成25年度国立病院機構患者満足度調査入院部門において、当院が全機構病院の中で第10位にランクされました。この順位をどう捉えるかは個々人の判断に委ねるしかありませんが、できれば第1位を目指したいものです。現在平成28年4月に新病院をオープンさせる準備が進んでおります。建物は大工さんにお任せですが、中身は我々職員一人一人が作り上げていかなければなりません。過去に“2位じゃダメなの？”という言葉がありました。真に患者さん・ご家族のため、地域に役立つ病院になっていければ、いずれ“栄冠の第1位”を獲得することも夢ではないかもしれません。その夢を追い求めつつ「広報誌ウィズ」も頑張っていきますので、今後とも応援よろしくお願い致します。（H・O）

独立行政法人 国立病院機構西群馬病院

〒377-8511 群馬県渋川市金井2854 TEL0279-23-3030 FAX0279-23-2740 <http://www.hosp.go.jp/~wgunma>